

記者懇談会の記録

日 時	令和 8 年 4 月 24 日（金） 15：30～15：55
場 所	岩見沢市役所 3 階 会議室 3-1、3-2
記者数	4 人

1 令和 8 年度工事発注計画について

（市長）

今年度の工事発注計画についてご説明申し上げたいと思います。

中東情勢問題に伴う原油価格の高騰や物価の上昇などにより、様々な業種で経営悪化を招き、市民生活や地域経済への深刻な影響が続くことが懸念されている状況でございます。

このような状況を踏まえた中で、本市としては、地域経済をしっかりと支えるために、市民生活の基盤となる公共事業予算について、本年度も限られた予算の中ではありますが、積極的に確保に努めたところでございます。

本年度発注を予定する工事費ですが、一般会計、企業会計などを合わせて約 76 億 1,600 万円となっております。

内訳を申し上げますと、一般会計で約 25 億 8,300 万円、企業会計で約 46 億 7,400 万円、昨年度予算の繰越分が約 3 億 5,900 万円となっており、昨年度と比較して、11 億 6,000 万円の減少となっております。

本年度の主な工事としましては、市営住宅改修・改築に、約 7 億 7,000 万円、下水道改築更新工事に約 2 億 1,000 万円、教育施設改修に約 1 億 8,000 万円、有明交流プラザ空調改修に約 1 億 5,000 万円、新病院整備事業に約 29 億 5,000 万円、南光園処理場改築に約 9 億 7,000 万円となっており、市民の安全・安心で快適な暮らしの確保や教育環境の向上による地域経済の活性化に取り組んでまいりたいと考えております。

上半期の工事発注ですが、本年度も地域経済の活性化の観点から、特段の事情がある工事以外は早期の発注に努めてまいりたいと考えております。

上半期となる 4 月から 9 月までの工事の発注計画は、全額上半期での発注を目標としており、発注予定額で総額約 76 億 1,600 万円で、前年度の計画約 87 億 900 万円と比較すると、約 10 億 9,300 万円の減少となっております。

資料の 2 枚目は、上半期の工事発注計画として、件数で作成したものになっております。繰越明許や債務負担行為による発注済から 9 月までを上半期といたしまして、

会計別に整理したものです。

本年度については、年間で 86 件の工事を予定しており、先ほど申し上げましたとおり、全て上半期での発注を目標としております。

本年度も既に発注済みの工事のうち、請求のあった前払金について支払いを実施しており、今後も前払金や中間前払金については、工事期間中の建設業者の資金繰りを改善し、従業員の方の確保や下請け業者への支払いを通じて、地域経済への波及効果が期待できることから可能な限り早期に工事を発注し、雇用あるいは景気対策にも努めてまいりたいと考えております。

<質疑応答>なし

2 岩見沢市旧美流渡中学校交流館について

(市長)

旧美流渡中学校は、児童生徒数の減少により、平成 31 年 3 月に閉校となりましたが、平成 22 年度に大規模改修も行われており、地域から利活用を望む声が寄せられておりました。

こうしたことから、令和 3 年度から 3 年間、東部丘陵地域を中心に活動する「みる・とーぶプロジェクト」に委託し、企画展やワークショップなど試験利用を進めたところ、市内外から多くの来訪があり、地域活動の活性化や交流の促進など、一定の成果が見られたところ
であります。

こうした成果を踏まえ、必要な改修を行い、4 月 18 日に岩見沢市旧美流渡中学校交流館として新たにオープンいたしました。

交流館は、廃止した栗沢工芸館の機能を集約・再編しながら、芸術や文化を核とし、新たに炭鉱や鉄道などの地域の歴史に触れるコーナーをはじめ、創作活動やワークショップ、イベント会場などの機能を加え、様々な活動の場として利用することができます。

開設期間は 10 月 31 日までの土曜日と日曜日の開館となっており、MAYA MAXX さんの作品常設展示のほか、次のページのチラシにありますように、5 月 3 日から 5 日は、みる・とーぶプロジェクト実行委員会によるイベントとして、ハンドメイドや作品展示、ライブなどを予定しておりますので、多くの方々にご来場いただき、お楽しみいただきたいと思いますと考えております。

<質疑応答>なし

3 その他記者から質問

<質疑応答>

(北海道新聞)

2点ありまして、1点目は、JRの黄色線区について、この間、JRが記者会見で正式に発表しましたけれども、年度内に何らかの方向性を定めたいということで、近々で沿線各自治体で会議を開くということのようですけれども、先日市長からはコメントを頂戴しましたが、改めてどういうことが議論されるべきか、お考えをお聞かせいただければと思います。

(市長)

これから具体的な協議に少しずつ段階を踏んで入っていくことになっていきますけれども、一応室蘭線代表の市としてということになるかと思いますが、まずは黄色線区自体はJR北海道も維持をしていくというふうに位置付けていますので、そのことをベースとして、経費削減や利用促進に向けては、引き続き協調を図りながら進めていくことが必要だということが共通した認識と思っています。

今回、抜本的な改善策として、4つの項目、上下分離も含めた項目が提出されていますが、協議を進めていくことが必要であると私自身認識しています。

ただ、上下分離方式の具体的な中身、あるいは自治体負担の規模なども全く示されておりませんので、現段階で言えることは、赤字規模から考えると、沿線市町村だけでは負担できるようなレベルにはありませんので、そのことを含めて、現時点で申し上げる段階にはないのかなと思います。

事務レベルでの協議を進めていくことについては、私からも話をいたしました。

北海道全体の鉄道ネットワークをどうするのか、そういった観点では、北海道のイニシアチブが必要であり、明らかにしていただきたいと考えていますし、室蘭線の特徴として、非常に重要な貨物物流を担っているということがありますので、JR貨物さんが使用するアボイダブルコストのことも含め、沿線市町村で負担することはできませんので、そういった協議も並行してやっていく必要があるんだろうと思っています。

まず北海道において、道内の人流と物流をどのように鉄道のネットワークを作っていくのか。そういった観点で、早急にイニシアチブをとっていただき、明らかにしていただきたいというふうに思っていますし、財源的なことを考えると、それぞれの立場によって異論は十分あるんですけれども、沿線自治体だけの負担ということよりは、国・道がどういうふうな役割を示していただけるのかというのが重要かと思いま

す。

黄色8線区は道内の鉄道の約4割を占める路線になりますので、北海道内のネットワークという議論もさながらありますが、国全体のネットワークという議論もあり得るだろうというふうを考えていますので、国や道には主体的に関与していただきたいと思っています。

室蘭線は道内で集荷された荷物が通る重要な貨物路線ですので、それがちょっと先ほどの話と重複するかもしれませんが、沿線自治体だけでその負担をすべきという議論にはならないというふうには考えています。

(北海道新聞)

2点目なんですけれども、中東情勢に絡む案件なんですけれども、ガソリンなどの油の不足だけではなく、ナフサですとかシンナーなどの不足も指摘されております。

工業関係に影響が大きいかと思えますけれども、岩見沢市内での影響について懸念されていることがあればお願いします。

(市長)

市民生活もそうですし、経済活動にも大きく影響が出るということで、関係団体をはじめ、商工会議所さんですとか色々なところに調査・照会をし、情報交換、情報共有を図っているところです。

また、市役所の各部署にも影響調査の指示を出したところなんですけど、現段階の状況で申し上げますと、例えば発注済みの工事に関しては、今のところ予定どおりです。

ただ、今後、価格の上昇もあり得ますし、例えば、TOTOのユニットバスが入らないという議論もありますけれども、市営住宅の改修を予定しておりましたが、後ずらしをすることになりました。農業資材の高騰も見込まれますし、注意深く調査しております。

その他に、広報の発注なのですが、インクあるいは、印刷機についてインクを除去するシンナー溶剤ですね。その手配が卸業者からの供給も含めて先が見通せないということで、本来は4月から1年間の契約として官公需契約を結ぶのですが、今回は、3ヶ月の短期契約に区切って契約をし、状況を見ながら更新をしていくというような対応になっています。

ただ、発注済みの工事関係、あるいは業務委託関係については、今のところ業者の方からの相談等についてはあまり来ていない状況です。

長引けば長引くほど、いろんな面でしわ寄せが出てまいりますので、石油製品の全

般的な高騰あるいは入手困難な状況が続いていくと、例えば、企業の資金繰りの悪化ということもありますが、農業資材コストの上昇ですとか地域経済に与える影響は非常に大きくなるのではないかと懸念をしております。

さらに、資材費の高騰、調達の遅延、物が入ってこないと入札の不調につながりますよね。また、工期の見直しも必要になってくる場合があるのではないかと。

また、公共施設の維持管理コストにも跳ね返ってきますし、学校給食の食材費もおそらく上昇してくるというような懸念も持っています。

さらに、ゴミの焼却処理ですとか、上・下水道というのは非常にエネルギーを使う分野になりますけれども、業務のコスト上昇もあるかもしれませんし、いずれにしても、現段階ではっきり断定的に言えることはないですけども、状況を的確に捉えた上で、必要な対応を的確に行っていくということが必要かなと思っています。

土木課で発注する工事については現時点では計画通りに発注予定としています。

アスファルト合材を含む土木関係の資材調達は可能だというふうに現時点では思っていますが、価格の高騰があるかもしれないということで先ほど申し上げた入札の不落ですとか、工期の延長ですとかそういったことが発生するかもしれないですが、この点については全く不透明です。

それから、建築関係では先ほど一番最初に申し上げた市営住宅、3条西16丁目の市営住宅なんですけれども、4月に発注する予定だったんですが、ユニットバスも改修する予定でしたので、受注停止の報道も流れましたので、一旦ちょっとペンディングとしました。ただ、工事全体では2ヶ年工事なので、多少遅れても支障はないかなというふうには考えています。工期には影響しないものの、入札時期をずらしたというような状況です。

それから塗装関係で、外壁の塗装ですとかそういったものも予定しておりますので、今後の状況次第かなというふうに思っています。

市内の資材メーカーさんにお聞きしても、納期が不透明になっているものが結構出てきているということなので、石油製品全般、塗料、断熱材、ビニール関係そういったものについて、今後も最新動向の把握に努めたいと考えています。

他に、有料のゴミ袋があります。ゴミ袋の原料が高密度のポリエチレンなんですけれども、縦方向の荷重に強いという特性があるので、ゴミを多く入れる袋としては非常に素材としてはいいんですが、高密度のポリエチレンで有料のゴミ袋を作成していて、それを買って使ってるんですが、その高密度のポリエチレンが年間受注はなかなか厳しいという状況があったので、低密度ポリエチレン、横方向には強いのですが、高密度に比べて縦に弱いという特性があるんですが、そちらに切り替えざるを得ない時期、状況にもなるかもしれないということで、調整をかけたんですけれども、結果的にはこれから1年間は高密度のポリエチレンを資材として確保できるという連絡を

いただきました。ただし、資材費としては値段が上がるんですけども、値段が上がるからといってゴミの手数料を上げるわけにはいかないので、慎重な対応が必要だと思います。当面ゴミ袋についてはそういう状況です。影響はないとは言えず、どこまで広がっていくのか不透明だというふうに思っています。特に外壁塗装関係については影響が出てくるのではないかと非常に心配はしています。

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報係)